

2021年5月28日

鹿児島大学病院 整形外科・リウマチ外科 で

思春期特発性側弯症の治療を受けた患者さんへ

(医学系研究に関する情報)

鹿児島大学病院整形外科・リウマチ外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

思春期特発性側弯症における術後 distal adding-on 発生因子の研究

【研究機関】

鹿児島大学病院 整形・運動器センター 整形外科

【研究責任者】

鹿児島大学病院 整形・運動器センター 整形外科

助教 河村 一郎

【研究の目的】

思春期特発性側弯症で高度な側弯症に対しては保存療法の効果がなく、加齢変性ととともに進行するリスクが高いため、手術治療が選択され、その治療の有用性が示されています。その術後経過において終椎（側弯カーブの終わりとなる背骨：椎骨）が延長し、その側弯のカーブが延長する distal adding-on 現象の報告がされています。しかしながら、この distal adding-on 現象のリスク因子にはまだ十分な検討がされていません。

この研究の目的は、既に思春期特発性側弯症に対して手術を施行された患者さんを対象に、画像の評価を行い、distal adding-on 現象の発生因子を検討することです。この研究を行うことにより、手術方法を含めた治療の改善が期待できます。

【研究の方法】

既に術前検査、術後フォローとして施行された立位脊椎連続単純 X 線画像による術前後の計測、骨性成熟評価および術前後 CT 画像を用いた椎体回旋評価、患者立脚型評価アンケート（SRS-22）を用い評価します。

【対象となる患者さん】

この研究は 2005 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までに、鹿児島大学病院整形外科・リウマチ外科で思春期特発性側弯症と診断され、手術を受けられた患者さん 100 名に参加のご協力をお願いし、2022 年 3 月 31 日まで研究を行います。

【試料や診療録（カルテ）から利用する情報】

既に施行された脊椎連続単純 X 線画像による術前後の計測、骨性成熟評価および術前後 CT 画像を用いた椎体回旋評価、患者立脚型評価アンケート（SRS-22）を用い評価します。この研究では、あなたから頂いた診療情報は、この研究が終了してから 1 年経過する 2023 年 3 月 31 日まで、鹿児島大学病院整形外科・リウマチ外科医局で保管いたします（管理責任者：整形外科 助教 河村 一郎）。保存期間を満了後、個人を特定できない形に粉碎し廃棄いたします。

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や生年月日など、患者さんを直接特定できる個人情報を匿名化します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使

用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科整形外科学分野の研究費（使途特定寄附金）で実施します。この研究は、研究者が独自に計画し、実施します。企業等の第三者機関からこの研究のための資金提供や労務提供は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番地1号

鹿児島大学病院 整形・運動機能センター 整形外科

助教 河村 一郎

電話 099-275-5381 FAX 099-265-4699